第五回市民PJ Bグループ

メンバー

進行:中村直 発表:井嶋孝 記録:佐野由希子

五十嵐信明 小日向克司 長岡敏郎

弱み

- ・高齢者が亡くなった後、空家はどうなるのか
- ・人が集まる機能が点在化している
- ・バスが無く、村部から葛塚に来る手がない

強み

- ・人が多すぎない良さがある
- ・市場があり、チャレンジ出店で外部の人の力も利用できる。
- ・高速や電車などは交通の便が良い
- ・区役所には用事のついでに訪れ、毎日人が居る。

目的

- ・高齢化だが栄え続け、若い子育て世代が地域に入る、世代間交流のある地域になって欲しい。
- ・市場と文化的かかわりを残し、町の中心として居て欲しい
- ・お金をあまりかけず、その分余裕を持った運営をして欲しい

計画

- ・区役所もコンパクトに利用しやすくするといい。
(建築中の役所機能は場所を借りたり、仮設のもので行う)
- ・大規模、豪華な建物ではなく葛塚をアピールできる建物にする。
- ・交流ができるような付帯施設をつける。
(例：温泉・スポーツ施設、多目的ホール)

効果

- ・近隣住民が喜び、中心部に人が集まり、活性化する。
- ・空き家に外から人を呼ぶときも来やすくなる。
- ・地域住民との関わりが途切れないことで、高齢者の孤立を防ぎ、高齢者を狙った犯罪を防ぐ。
- ・新たに道路を引いたりしないので、お金がかからない。

手法

- ・建築中の機能は場所を借りたり、仮設のもので行う。
- ・お金がかからないことを主張する。

質疑応答

Q：役所に用事があるのは年に一度くらいではないか。

A：それでも、区役所は行きたくない人でも行く施設であり、毎日誰かしら人が訪れるという強みがある。

実際に働いている方の意見——現状ではとても狭く思っている。